

## 巻頭言

山のトイレを考える会 代表 小枝正人

北海道の山を愛する皆さま

3年間続いている新型コロナウイルス感染禍のこの1年、いかがお過ごしでしたか。どうやら2023年3月頃からはコロナ対応の社会的行動様式も大きく変わるようです。コロナウィルスは無くなりませんので自分自身で考えて行動することが求められます。変わらず心して頑張らしましょう。

2022年度(令和4年度)の「山のトイレを考える会」は、多くの皆さまのご支援に支えられて元気に活動をやり遂げることが出来ました。本当にありがとうございます。ご報告したい主な項目は3つあります。1つ目は、美瑛富士トイレ管理連絡会(北海道の山岳団体9団体で構成)・美瑛町・環境省による美瑛富士避難小屋携帯トイレブースの維持・点検パトロール活動を事務局として継続出来たことでした。官と民が協働する活動として有意義な仕組みです。良き事例としてこれからも継続していきたいと考えています。2つ目は、大雪山国立公園山岳トイレ等検討作業部会が発足し、そこに参加して議論・協議が出来るようになったことです。第1回目が2022年7月、第2回目が2023年2月に開催されました。もちろん会議をすることが目的ではなく多くの課題に優先順位をつけて解決に向け議論をすることです。これからが真価を問われることを承知しています。3つ目は、現状の日高山脈の山小屋とトイレの実態調査を開始したことです。実態把握は、日高山脈の国立公園化に関わる国立公園ビジョンを議論する際の一助になると考えています。

2023年(令和5年)に誕生すると思われる原生的な魅力の日高山脈・襟裳国立公園(正式名称は未確定)のことで少し提案があります。「保護と利用」における将来事象の検討の為に「登山(利用者)データ蓄積の仕組み」が必要です。日本山岳ガイド協会と北海道警察は協定を結び協会の登山届受理システム「コンパス」を閲覧できます。道警にはオンライン登山計画書届出システムもあります。環境省が協定に加わり個人情報保護をした上で2つの情報を閲覧・利用できるようにと提案です。また、「ヒグマとの共生とリスク対応」には足もとのIT機能展開が必要です。新聞報道によれば、道警地域部がツイッター公式アカウント「地域情報発信室」を開設し、ヒグマ情報や山岳遭難防止の発信をします。夜間や休日でも利用可能な利点のある仕組みに加わりましょう。いろいろな想いがめぐります。

本日の第24回目のフォーラムでは「NPO法人かむい」の濱田耕二代表理事から「登山者が安心して登山できるトイレを維持する為にかむい出来る事」と題して講演を頂きます。「山のトイレに取り組む人たち」の一人として賛意を胸に聴講したいと思います。では一緒に！結びはいつもの次の言葉です。

～山岳環境問題改善の活動は官民協働の仕組み構築こそが未来への道である～